

## 第6回モーターボート競走事業活性化検討委員会議事概要

### 1. 日時

平成18年6月22日（木）14:00～16:00

### 2. 場所

国土交通省11F特別会議室

### 3. 出席者

蔭山委員、川口委員、境委員、笹川委員、杉山委員、竹内委員、松田（英）委員、松田（公）委員、廻委員、柳澤委員、星野海事局長（以上五十音順）

### 4. 議事

（1）笹川委員からの報告

（2）これまでの論点整理

### 5. 議事概要

初めに、笹川委員より助成金交付事業のあり方について報告を受けた後、報告に対する質疑応答を行った。その後、事務局より「これまでの論点整理」について資料に基づき説明を行った。委員会が出された主な意見は次のとおり。

- （財）日本船舶振興会の財務状況の透明性については、外部監査を導入し、ディスクロージャーも行われており問題ない。
- 施行者の財務に関する外部監査やディスクロージャーのあり方についても検討すべきではないか。
- 競艇ファンのため、全国どこでも舟券の相互払戻ができるように検討すべきではないか。
- 払戻率についても弾力的な対応がありうるのではないか。
- 払戻率の弾力化については施行者が経営合理化により地方財政に貢献できるようになった後の検討課題であり、慎重な対応が求められる。
- 人件費や選手費の経費削減についての数値目標については慎重な取扱いが必要ではないか。
- 他競技では赤字で撤退する施行者はたくさんある。モーターボート競走においても今後撤退が続けば、モーターボート競走全体の魅力が低下して行く。関係者全体が運命共同体だという意識をもつことが重要ではないか。余裕のある施行者が余裕のない施行者を支援する仕組みがないと全体がだめになる。
- 報告書の方向性としては、部分最適ではなく、全体最適を目指すというメッセージを強く打ち出して欲しい。